

2023年8月27日 礼拝説教要旨

ハイデルベルク信仰問答講解説教Ⅱ 12 「預言者・祭司・王」

ゼカリヤ9：9～10、Iペトロ2：9

**問31**なぜこの方は「キリスト」すなわち「油注がれた者」と呼ばれるのですか。

**答** なぜなら、この方は父なる神から次のように任職され聖霊によって油注がれたからです。「キリスト」という言葉には元々「油注がれた者」という意味があります。それは務めに就かせること、「任職」の行為であります。イエスさまがキリストであるということは、イエスさまが父なる神さまから特別な任務を与えられた、任職を受けたお方であることを示しています。では具体的にそれはどういう務めなのでしょう。

すなわち、わたしたちの最高の預言者また教師として、わたしたちのあがないに関する神の隠された熟慮と御意志とを、余すところなくわたしたちに啓示し、わたしたちの唯一の大祭司として、御自分の体による唯一の犠牲によってわたしたちをあがない、御父の御前でわたしたちのために絶えず執り成し、わたしたちの永遠の王として、御自分の言葉と霊とによってわたしたちを治め、獲得なさったあがないのもとに、わたしたちを守り保ってくださいます。

まずイエスさまは「最高の預言者また教師」と言われます。預言者とは、神さまの言葉を預かり、これを伝える務めのことです。神さまの言葉には、神さまのご意志、御心が込められています。では、神さまの御心、ご意志とは何でしょうか。信仰問答は「わたしたちの贖いに関する神の隠された熟慮と御意志」と言います。つまりそれは「わたしたちの贖いに関する」ことです。神さまに背いていたわたしたちの罪を赦して、神さまとの関係を回復してくださいます。そのためにイエスさまは十字架でその身を献げて、わたしたちを罪の支配から買い取ってくださいました。この救いのゆえにイエスさまご自身が完全な神さまの御心です。ヨハネ福音書に「言は肉となってわたしたちの間に宿られた」（1：14）とあります。神さまの言葉、神さまの御意志がイエスさまという具体的な存在となって世に現れました。イエスさまは父なる神さまの御意志を「余すところなくわたしたちに啓示」なさるお方なのです。

さらにイエスさまは「唯一の大祭司」です。祭司は、旧約聖書にその背景がありますが、毎日、犠牲の動物を献げて、人々を神さまの御前にとりなし、罪の贖いをする務めをいたしました。そのようにして神さまと人間の仲立ちをしたのが祭司です。イエスさまはまさに仲保者としてわたしたちを御前にとりなし、十字架によってご自身を犠牲として献げて、わたしたちの罪を贖ってくださいました。それによってわたしたちは罪を赦され、御前に神の子として生きることができるのです。さらに信仰問答が「唯一の」という言葉を付け加えるのは、イエスさまの贖いは一回限りの、完全な贖いだからです。人間の祭司のように繰り返し犠牲を献げることはありません。ヘブライ人への手紙には「雄山羊と若い雄牛の血によらないで、御自身の血によって、ただ一度聖所に入って永遠の贖いを成し遂げられた」（9：12）とあります。イエスさまは十字架によって完全な贖いを成し遂げてくださいました。

そして三つ目、イエスさまは「永遠の王」であります。王は支配する存在です。その支配の中で国を守り、保つ務めです。信仰問答では「御自分の言葉と霊とによってわたしたちを治め、獲得なさった贖いのもとに、わたしたちを守り保ってくださいます」とあります。獲得なさった贖い、それは罪の赦しであり、わたしたちを神の子として御前に関係を回復することです。聖書ではそのような神さまと正しい関係にあることを「神の国」と言います。わたしたちがこの神さまの御国に安心して憩えるようになるために、イエスさまは命がけで罪と戦い、これに勝利

してくださいました。そして神さまの御国を獲得してくださいました。マタイ福音書の最後に「わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる」(28:20)と約束されました。永遠に、終末の完成を目指して永遠の王であるイエスさまが共にいてわたしたちを守ってくださるのです。信仰問答はさらに問答を付け加えます。

**問32** しかし、なぜあなたが「キリスト」者と呼ばれるのですか。

**答** なぜなら、わたしは信仰によってキリストの一部となり、その油注ぎにあずかっているからです。それは、わたしもまたこの方の御名を告白し、生きた感謝の献げ物として自らをこの方に献げ、この世においては自由な良心をもって罪や悪魔と戦い、ついには**全被造物をこの方と共に永遠に支配するため**です。

ここでわたしたちがキリスト者と呼ばれることの意味を改めて問うています。何ゆえにわたしたちはキリスト者なのでしょう。先ほど教会のことに触れましたが、わたしたちは洗礼を受けてイエスさまに結ばれます。問20で「まことの信仰によってこの方と結び合わされ、そのすべての恵みを受け入れる人だけが救われるのです」とありました。イエスさまと結ばれて、そのすべての恵みを受け入れる。そのようにしてわたしたちは救われるのです。つまりここにわたしたちの救いの具体化があります。絵に描いた餅ではなく、わたしたちの存在としっかり結びつくようになります。それはその油注ぎ、任職にあずかることを意味します。わたしたちもこの預言者、祭司、王の三職に生きるのです。もちろんイエスさまと同じように完全な贖いができるということではありません。イエスさまに贖われた者として、その救いに応じて生きるためにわたしたちは召されています。

まず預言者として「この方の御名を告白」すること。それは自分の口ではっきり信仰を言い表すことですが、告白はただ言葉だけでなく、その生き方そのものが信仰告白的であることです。また祭司として「生きた感謝の献げ物として自らをこの方に献げる」こと。感謝の人生を歩むのです。救いを喜び、感謝して、自分を献げて生きる。キリストがご自身を献げてくださったように、わたしたちも自らを主の栄光のために生きるということです。それは礼拝を献げることでもありますし、隣人の救いのために生きることでもあります。そして王として「自由な良心をもって罪や悪魔と戦う」のです。十字架とよみがえりによって罪に勝利されたイエスさまと共にわたしたちも罪と戦う。キリスト者の人生もまた困難があります。誘惑があります。でもそれに流されずに戦う。毅然と立ち向かう。そういう勇氣、強さに生きること。キリスト者であるわたしたちはそういう務め、任職を受けています。

もちろんその務めを生きるふさわしさは微塵もありません。胸を張ってキリスト者であるとは到底言える者ではない。けれどもキリストに結ばれ、その十字架とよみがえりによって神の子とさせていただいているのです。恵みによって、この尊い務めに選ばれ用いられていることを感謝したいものです。

天の父よ。主はわたしたちのために預言者、祭司、王としての務めを担われ、その救いを成し遂げられました。そして主に結ばれているわたしたちもまたその尊い務めに召されていることを覚えて御名をあがめる者です。どうぞわたしたちをその務めにふさわしく整えてください。あなたの御名を証しし、隣人をとりなし、自由な良心をもって罪と戦うことができるようにしてください。主の御名によって祈ります。アーメン。